



ばい菌^{きん}だらけの手に、なぜ「かび」^はが生えないの

かび^{からだ}は体^{からだ}のどこにもあります

じつは、手^てにもかび^はが生えるのです。

かび^はは、人間^{にんげん}の体^{からだ}によく生え、赤ちゃん^{あか}から老人^{ろうじん}まで、年^{ねん}れいに関係^{かんけい}なく生えます。

「かび」といっても、おもち^たなどの食べ物^{もの}につくものとはちがい、人間^{にんげん}の体^{からだ}に生えるかび^はで、最^{もっと}も多^{おお}いのが、白癬^{はくせん}という病^び気^{よき}のもとになるかび^はです。

白癬^{はくせん}という病^び気^{よき}は

白癬^{はくせん}は、かび^はの仲間^{なかま}の菌^{きん}が、皮^ひふや毛^けなどについておこる病^び気^{よき}です。病^び気^{よき}の部分^{ぶぶん}によつて、しらくも^{あたま}（頭^{あたま}）、ぜにたむし^ひ（皮^ひふ）、いんきんたむし^{あし}（また^{あし}）、みずむし^{あし}（足^{あし}、手^てつめ）に分^わけられますが、手^てに生^はえるかび^はは、このうち、手^てやつめにできるみずむし^{あし}です。

みずむし^{あし}というのは、足^{あし}の指^{ゆび}の間^{あいだ}や足^{あし}の裏^{うら}などに、かゆいぶつぶつ^{かわ}ができたり、皮^{かわ}がむけたりする病^び気^{よき}です。この菌^{きん}は、皮^ひふの表面^{ひょうめん}の、角^{かく}質^{しつ}というたんぱく質^{しつ}の中^{なか}に生^はえますから、足^{あし}の裏^{うら}のように、厚^{あつ}くてたんぱく質^{しつ}がたくさんある皮^ひふには、特^{とく}によくすみつくのです。毛^けやつめも角^{かく}質^{しつ}のかたまりですから、そこに、この菌^{きん}がうつると、病^び気^{よき}になってしまうのです。

体^{からだ}がかび^はで病^び気^{よき}にならないためには、皮^ひふを、常^{つね}に清潔^{せいけつ}にしておく必要^{ひつよう}があります。

また、人^{ひと}にうつる病^び気^{よき}ですので、かかってしまったら、ほかの人^{ひと}にめいわくがかからないように、早^{はや}くなおすようにしましょう。（監修・保志 宏）

